

総括「これからの50年」

第444回 定例研究報告会 「石油危機から50年、そしてこれからの50年」

2023年7月25日

(一財) 日本エネルギー経済研究所 専務理事・首席研究員
小山 堅

エネルギー危機の過去・現在・未来と教訓（1）

<報告 1～7の要点>

- **中東の安定と関係強化の重要性**
- **天然ガス・LNGの役割と市場安定化の課題**
- **再浮上する原子力への関心・期待と今後の課題**
- **世界の分断とクリティカルミネラルを巡る経済安全保障**
- **イノベーション：果たすべき役割・期待・課題**
- **復活する産業政策とその重要性**
- **世界の分断で一層重要性増すアジアのエネルギー転換**

エネルギー危機の過去・現在・未来と教訓（2）

<高まる国家戦略の重要性>

- **第1次石油危機は「石油の世紀」の「終わりの始まり」**
(世界の石油シェアは1973年49%から2022年に32%に低下)
- **強力なエネルギー安全保障政策が変化のドライバーに**
- **今、再びエネルギー安全保障政策強化が最重要課題に**
- **加えて、脱炭素化の取組み強化もエネルギー転換促進へ**
- **世界の分断の深刻化で、国家戦略・政府が前面に**
(総合的安全保障の重視、グローバルサウスの重要性)
- **市場原理の「限界」・「陰」に関する関心の高まりも**
- **「国家」と「市場」の関係に大きな変化のうねりも**

エネルギー危機の過去・現在・未来と教訓（3）

<鍵握る「国家」と「市場」の相互関係>

- 国家戦略は重要。しかし、現実の変化は市場で起きる
- 技術革新・イノベーションの成否が「転換」の鍵
- 現実市場のプレイヤーの行動・投資が変化を決定する
- 激化する技術革新とルールメイキングを巡る闘ぎあい
(世界規模で交錯し、複雑化する「競争」と「連携」)
- 「国家」と「市場」の関係変化で、産業政策の復活へ
(New Washington Consensusが世界をリード?)
- 「危機」対応が「次の50年」のサバイバルと繁栄を左右